# 第９回大学院医学研究セミナー
# （第 13 回腫瘍病理セミナー）

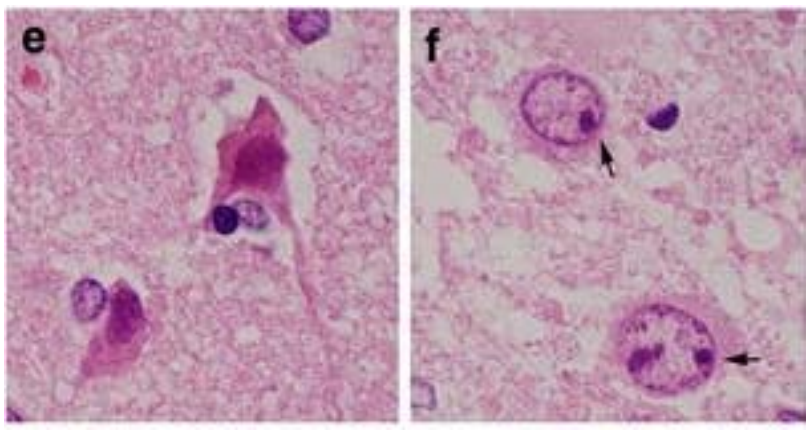
# 基礎と臨床の架け橋としての病理学を目指して

## ～ＪＣウイルスから学んだこと～

杏林大学　医学部　病理学講座

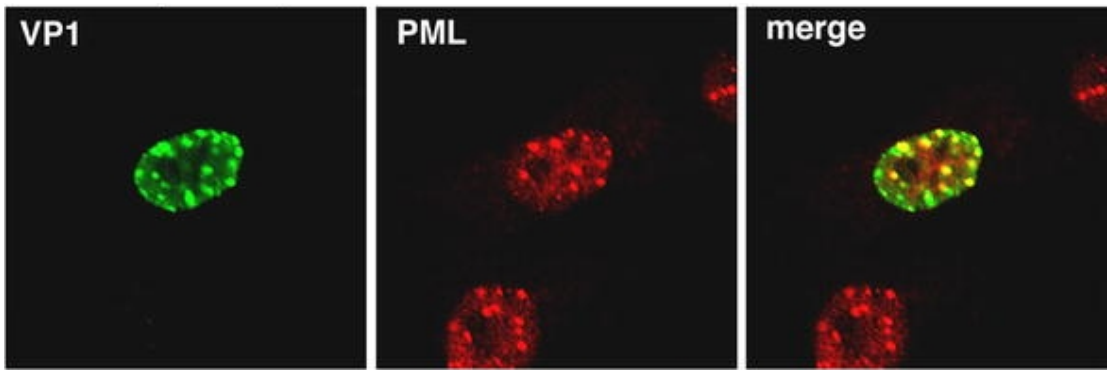
宍戸 - 原　由紀子　講師

JC ウイルスは、進行性多巣性白質脳症 (PML) を起こしますが、その分子機構は明らかにされていませんでした。宍戸 - 原先生は、JC ウイルスの組み換えウイルス粒子の作成を世界で初めて作成させ、それを用いて、JC ウイルスの感染の標的が細胞核内のドット状の構造、promyelocytic leukemia body (PML ボディ ) であることを明らかにしました。また、ヒトの脳組織でも JC ウイルスが PML ボディに集積していることも観察しています。




北海道大学医学部を 1992 年に卒業、北大・第二病理講座に入局後、96 年に学位を取得。
米国 NIH、　東京医科歯科大学疾患遺伝子実験センター神経変性研究部門、東京都神経科学総合研究所を経て 04 年から杏林大学病理学教室。
10 年　Kurt Jellinger 賞 (Acta Neuropathologica)
12 年　日本病理学会学術研究賞

宍戸 - 原先生の研究のきっかけは、医学生時代に病理解剖に立ち会い、" 何故、この患者さんを助けられなかったのだろう？ " にあるとのことです。病気の何故 ?" を明らかにして臨床へ情報を提供する・・・基礎と臨床の架け橋となる病理学について紹介して頂きます。




**７月８日（火）18 時から**
**金沢医科大学病院　本館４階　C41 講義室**

主催：病理学Ⅰ　清川　kiyokawa@kanazawa-med.ac.jp　内線　3611